

更に魅力的な言語研に

2024年4月
言語研の
カリキュラムが
変わります

コミュニケーション関連分野を大幅拡充!等

立命館大学大学院
言語教育情報研究科

Graduate School of Language Education and Information Science

Ritsumeikan University

言葉を探る 言葉を教える 言葉でつなぐ

言語教育情報研究科では、2024年度より研究科の人材育成目的の具体的実現に向けて、
「言語学・コミュニケーション表現学コース」「英語教育学コース」「日本語教育学コース」を3つの柱として設定しました。



言語教育情報研究科のカリキュラムが大きく変わります

言葉は混迷する現代社会の課題を解決する鍵
言葉の専門家を育成します

2024年春、言語教育情報研究科は「言葉を探る 言葉を教える」に加え「言葉でつなぐ」基盤を学び、研究する場所として大きく生まれ変わります。これまで培ってきた言語そのものの仕組みについての学問（言語学）と、言語教育や文化・社会の多様性を解明する学問（応用言語学）が、新たにコミュニケーション表現学と結びつくことにより、混迷する現代社会の今日的課題を解決することにつながると確信しています。

コロナ禍で人と直接会うことが制限される中で、私たちは高度な情報技術の進歩の恩恵を受け、オンライン上で直接会っているかのように対話することや仮想空間上をまるでそこにいるかのように行き来することなどを日常的に行うようになりました。さらに、世界中で関心が集まっている人工知能（AI）を使った対話型自動応答サービスの普及により、機械がまるで人間のような回答を出してくることを体験しつつあります。認識主体としての人間と言語、そして世界との関係のあり方に加え、人間がいかにして言語および非言語を用いてコミュニケーションを行っているのかについて明らかにすることの必要性が一層高まっていると言えます。

本研究科は、日本語教育・英語教育の専門家を目指す人々と言語に関する様々な領域の専門家を目指す人たちに門戸を開放しています。学部を出たばかりの方と言葉に関わる仕事をしてきた方、日本人と留学生、関心だけでなくバックグラウンドも多様な院生がお互いに刺激を受けながら研究しています。

言葉に関連する学問は日進月歩で発展しています。本研究科は、高性能の脳実験装置や研究科独自のコーパスなど高度な理論的・実証的な研究を進める環境が整っています。国内外で言語教育の実践の場としての教育実習の機会を用意し、さらに、多文化共生社会の推進のための活動を積極的に支援しています。このように学問の進歩と社会からの要請に応えられる体制が整備されています。立命館大学は各種研究助成制度も充実しています。大学院に入ってから成長する心構えのある方を歓迎します。

立命館大学大学院
言語教育情報研究科長

有田 節子
Setsuko ARITA



更に魅力的な言語研に

Feature 01

コミュニケーション関連分野の充実

コミュニケーション関連分野に新しく3名の教員が加わり、4科目を新設します。これによりコミュニケーション関係の研究指導も更に広範囲に、更に充実します。従来の「言語情報コミュニケーションコース」は「言語学・コミュニケーション表現学コース」として生まれ変わります。

Feature 02

各コース間の連携の強化

従来のコース/プログラム構成を、分りやすく「言語学・コミュニケーション表現学コース」「英語教育学コース」「日本語教育学コース」の3コース制とします。所属コースでの専門性が高い科目は「コースコア科目」としてありますが、他コースの推奨科目も「コース選択科目」として提示し、履修の検討がしやすいようにします。

Feature 03

院生に対する2年間の研究指導の強化

1回生の時はゼミには所属しませんが、オフィスアワー※を活用した個人別研究指導を強化します。この個人別指導と、1回生が全員履修する「研究基礎論1、2」を有機的に連動させます。2回生から所属するゼミは4月入学と9月入学が合同で履修し、一緒に研究活動を行います。研究段階の異なる院生が一緒にゼミを受講することにより、先輩の研究実践から学ぶなど、院生間の相互作用を促進します。

※授業とは別に専任教員とさまざまな相談をすることができる時間帯

Feature 04

今後の社会変化を見据えた改革と運営

(学園ビジョンR2030立命館大学チャレンジ・デザインに沿った改革と運営)
世界が大きくかつ急激に変化する中で、立命館学園は「学園ビジョンR2030」を策定し、未来のあるべき姿を積極的に社会に提起していくとともに、柔軟に粘り強く変化に対応できる力を育み、多様な人々が集う学園の創造を通じて社会に貢献することを追求しています。本研究科も「学園ビジョンR2030 立命館大学チャレンジ・デザイン」に基づき、新カリキュラムにおいて2030年の社会を想定した人材育成に努力します。新たな課題領域を切り開く想像力と創造力を携え、歴史を俯瞰して2030年の社会状況に立ち向かえる人材育成に取り組みます。

Feature 05

インターネットを介した授業

インターネットを介した授業は対面での授業に比して授業効率/教育効果を落とさないよう注意しなければならない側面がある一方で、教室の外に開かれた授業形態を可能にする側面があります。遠隔地にいる方に授業の中でインタビューを行ったりすることが可能になります。受講生全員がオンライン・ライブ配信で受講するメディアを利用した科目は2023年度の7科目から9科目に増やします。また、一部の受講生がオンラインで受講するハイブリッド形態に対応する科目は、2023年度の6科目から8科目に増やします。

人材育成目的

言語教育情報研究科は、英語教育学、日本語教育学、言語学、コミュニケーション表現学の分野において、時代の変化に対応できる専門家としての知識と、電子教材開発/活用の技術、言語情報処理技術、コミュニケーション上の言語/非言語情報の分析技術などを持ち、多文化・多言語の状況にある国内外の社会において活躍できる人材、および、研究者への道を志向する人材を育成することを目的とします。

科目紹介

※科目名称内の記号 L:言語学・コミュニケーション表現学コース、E:英語教育学コース、J:日本語教育学コース、C:研究科共通科目、R:研究指導科目

※科目名称は変更されることがあります

研究指導科目

R01-研究基礎論1 R02-研究基礎論2 R03-課題研究演習Ⅰ R04-課題研究演習Ⅱ

専門科目

コースでの学びの中核となる科目(コースコア科目)または学びの幅を広げる科目(コース選択科目)があります
※科目区分(コースコア科目、コース選択科目)は所属コースにより異なります。コースにより色分けした枠内がコースコア科目、枠外がコース選択科目となります。
※どのコースに所属していても他コースの科目を履修できます(「J13-日本語教育学演習(日本語教育実習)」は日本語教育学コース所属者のみ履修可)

言語学・コミュニケーション表現学コース 英語教育学コース 日本語教育学コース

L02-意味論・語用論	L03-形態論・統語論	L05-対照表現研究	L06-認知言語学
L08-言語調査法演習	L09-言語記述方法論	L11-言語情報学の諸問題	L12-バイリンガル言語習得と脳科学
L13-コーパスによる言語分析演習(日・英)	L14-Perlプログラミング	L15-社会言語学	L16-コミュニケーション論
L17-音声表現コミュニケーションの諸相	L18-言語表現メディアの諸相	L19-相互行為分析	L04-英語語法文法研究
L07-英語語法文法分析演習	L10-バイリンガリズム	E01-英語教育学総論	E02-第二言語習得論
E03-英語学(文法論)	E04-早期英語教育論	E05-言語教育における測定と評価	E06-英語教育における語彙習得論
E07-英語教育学の諸問題	E08-英語教育インターンシップ	E09-英語授業分析・教材開発演習	E10-TESOL教授法と実習
E11-TESOLリサーチスキルズ	C02-電子教材開発演習	J01-日本語を対象とした第二言語習得論	J02-日本語教育学総論
J03-日本語教授法・教材論	J04-言語文化教育論	J05-年少者日本語教育論	J06-日本語学(語彙・意味)
J07-日本語学(文法)	J08-語用論・談話分析	J09-日本語教育学の諸問題	J10-日本語教材開発演習
J11-日本語教育実践演習	J12-多文化共生実践演習	J13-日本語教育学演習(日本語教育実習)	

研究科共通科目

C01-応用言語学のための統計解析 C03-基礎言語情報処理 C04-外国語教育学新展開講義 C05-英語翻訳学演習
C06-英語アカデミックスキル演習 C07-日本語アカデミックライティング C08-特殊講義

2年間の研究指導の流れ

4月入学の場合(9月入学の場合概ね時期が6ヶ月ずれます)

1年次 春セメスター	1年次 秋セメスター	2年次 春セメスター	2年次 秋セメスター
年間研究指導計画書提出(4月)	構想発表会(12月)	年間研究指導計画書提出(4月)	中間報告会(10月) 学位審査対象成果物提出(1月)
「R01-研究基礎論1」履修 ・研究の基本を学習 ・オフィスアワーを活用した個別指導との連携	「R02-研究基礎論2」履修 ・基礎固めとともに、個人別の構想発表会準備 ・構想発表会後、研究計画を繰り返す	「R03-課題研究演習Ⅰ」履修 ・ゼミでの研究指導 ・中間報告会準備	「R04-課題研究演習Ⅱ」履修 ・ゼミでの研究指導

オフィスアワーで研究指導

※研究科ホームページにはさらにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを掲載しています。



言語学・ コミュニケーション 表現学コース

Course in Linguistics and Studies of Communication and Expression



本コースは、言語学とコミュニケーション表現学の分野で大学院生が様々な事象を研究できるようになる教育を行っています。日本語や英語といった個別言語を研究対象とするだけでなく、複数の言語の対照研究や各言語の方言の研究も可能です。また、過去の修士論文の中には、日本語や英語の研究成果を応用してモンゴル語やチベット語や中国語を分析したものもあります。さらに、対面調査だけでなくコーパスを使った研究や脳科学による言語研究の方法も学ぶことができます。一方、コミュニケーション表現については、具体的な音声表現・文章表現の作品分析から現実の社会生活場面の相互行為分析に亘る、多様なコミュニケーション表現事例の研究方法を学ぶことができます。

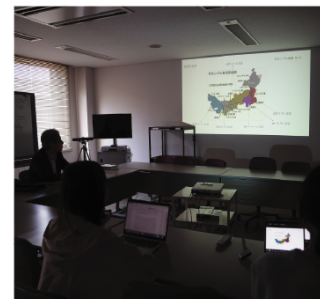
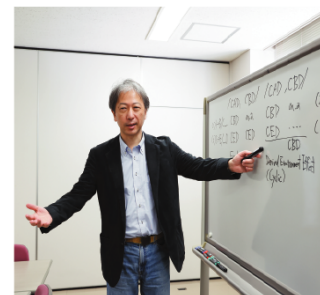
在 学 生 の 声



ANAER さん
言語情報コミュニケーションコース
2021年9月入学

大学3年生の時、1年間交換留学で日本を訪れました。アルバイト先のオーナーが「膜」という言葉について「身を美しくすること」と説明していたのが印象的でした。教師だった母からの影響や日本でいろいろ教えて下さった方の影響もあり、いつか教師になりたいと思いました。しかし、自分の知識が浅いことやコミュニケーションの戦略を身につけていない

ことを痛感し、進学を考えるようになり、言語教育情報研究科に入学しました。方言に関心があり、研究科ではモンゴル語のホリチン方言の固有語に適用される音韻規則が外来語に対してどのように適用されるかについて調査しています。言語学の知識を磨き、修了後は博士課程への進学を希望しています。



修 了 生 の 声



木村 修平 さん
言語情報コミュニケーションコース
2005年度修了
立命館大学生命科学部教授

私は現在、立命館大学生命科学部などで展開している「プロジェクト発信型英語プログラム」の運営に関わっています。英語とICTを知的生産のインフラと位置づけるこのプログラムでは、言語教育情報研究科で学んだことが十二分に活用できており、同じく研究科を修了した同僚らとともにやり甲斐のある日々を送っています。英

語とICTの両方を学べる研究科に進学したからこそ今の私があります。自分次第で多くの刺激とチャンスと人脈を手に入れられる場所ですので、後輩院生にはぜひアクティブかつ貪欲に、研究科のリソースを利用してもらいたいです。

■ 言語学関連科目

音韻論、形態論、統語論、意味論、社会言語学といった言語学の諸分野を扱う科目を配置しています。言語類型論の知見を取り入れた講義は、日本語や英語以外の言語の分析にも役立つ内容になっています。新しい知見を得るには、生成文法などの言語理論を学ぶのに加え、調査や分析の方法も学ぶ必要があります。フィールドワークやアンケート調査のノウハウを学ぶことができる科目も開設しています。

文理融合的な科目も開設しています。コーパス分析の科目では、用意されたソフトウェアを使うのではなく、テキストエディタなどによるデータの分析ができる力を身につけることができます。また、脳血流計を使った言語脳科学の科目では、母語と第2言語の脳活動を分析する方法を学ぶことができます。

■ コミュニケーション表現学関連科目

認知言語学、語用論、コミュニケーション論、相互行為分析、表現メディア研究といったコミュニケーション表現学の諸分野を扱う科目を配置しています。ことばを探究する視点として、特定の語句や文などの表現が、どのような心の作用と関係があるのか、他人に何を伝達しようのか、社会の営みにどう貢献しているのかを学ぶことができます。また、小説やアニメなどのことばを用いたさまざまな表現媒体の作品を分析するための基礎を学ぶことができる科目も開設しています。コミュニケーション表現学を複数の視点から観察・説明できるようになるために、各科目で討議やさまざまな実践体験の機会もあります。たとえば、会話場面を収録するためのノウハウ、分析のための動画や音声の編集やアノテーションソフトウェアの操作方法だけでなく、文章表現・音声表現の機能を考慮したプレゼンテーションやアウトリーチの方法・技術を身につけることができます。

想定される進路

言語学・コミュニケーション表現学コースでは、言語学の専門知識を身につけることができるほか、テキスト処理技術に関する専門知識などの能力を身につけることができます。

また、単なる意思疎通能力としてのコミュニケーションスキルを超えた、実社会で活躍することを可能にする次世代型コミュニケーション能力や、表現分析に関する専門知識や今日のメディア環境に対応する文章表現・音声表現の実践能力などを身につけることができます。

このような能力を活かして主に下記のような進路で活躍する人材を輩出しています。

- ・博士課程後期（文学研究科、他大学）進学（言語学など）
- ・製造分野（システムエンジニア／研究／開発など）
- ・出版社／教育事業分野（企画／編集／開発など）
- ・情報・通信分野（新聞／放送／映像・音声・文字情報制作／インターネット関連など）
- ・サービス分野（コンサルティング／広告／システム／福祉など）

英語教育学 コース

English Language Education Course



大学4年間で英語の一種免許を取得した(または、あと少しで取得予定の)段階から更に一歩深く英語教育学・英語学を学ぶことで専修免許を取得し、現場で高い専門知識・技量を持った英語教員として活躍できるカリキュラムを提供しています。海外の大学と共同開講しているTESOLプログラムを履修することで国際水準を満たすTESOL - certificateを取得することもできます。

また、在学中に教育現場体験ができるように、近隣の府立高等学校でのインターンシップも提供しています。情報コミュニケーション・日本語教育学・言語脳科学等他のコース提供の講義も受講できますので、修了後に教職だけでなく研究職や一般企業就職等に幅広く対応しています。

在学生 の声



鈴木 佑弥 さん
英語教育学プログラム
2022年4月入学

高校在学中にアメリカ合衆国で一年の交換留学を経験し、その時改めて日本人が、外国語として英語を学習することの難しさを痛感しました。振り返ると、知識的・理論的な理解不足が、当時の英語学習への向き合い方の戸惑いの種になっていました。そのような経験から、人間の言語習得のメカニズムや、母語の習得と外国語の習得の根本的な違い、などに疑問を持ったことが、応用言語学での研究を決心したきっかけです。現在は、個人的な疑問の解決だけでなく、日

本社会で英語学習に取り組んでいる人へ、貢献できないか考えるようになりました。研究テーマはトランスランゲージングです。英語の授業の中で、個人が(母語を含めた)言語をはじめとする資源を最大限に活用して、いかに英語学習を活発にするか、ということに強い興味を抱いています。修了後は英語教員を志望しており、授業実践に活かせるように、「理論と実践」の表裏一体の関係を常に念頭に置いて研究活動に励んでいます。

修了生 の声



布野 拓海 さん
英語教育学プログラム
2022年度修了
立命館中学校・高等学校教職課程

学部時代、アメリカに語学留学し、第二言語習得に興味を持ちました。将来は英語教師になりたいと考えていたので、より専門的に言語教育を学ぶために言語教育情報研究科へ進学しました。1年目は、TESOL資格取得プログラム(オーストラリア)をコロナ禍のためオンラインで受講し、普段の授業で得た知識を深めることに加え、ICT授業における実践力を磨くことができました。また、1年を通して府立高校英語科でのインターンシップ(教務補助と授業補助)

に参加することで、変化を繰り返す教育内容や生徒像をこの目で確かめ、最新の教育環境で教えるための準備を進めてきました。2年目は、修士論文完成に向けて、コロンブス(連語表現)の学習に関する実験を行いました。学習者の既存の語彙知識を用いた明示的な指導が、未知語の習得・保持にどれくらい効果があるかを研究しました。この成果を基に、今後は語彙レベルに応じた段階的な学習を教育現場で実践し、生徒の成長をサポートしていきたいと思っています。

英語教育関連科目(講義系)

外国語教育の基礎となる第二言語習得理論、その研究成果を踏まえた英語教育学総論、英語教育における語彙習得論、言語教育における測定と評価、カリキュラム設計とシラバスデザイン、そして、日本での英語教育において重要度が増している早期英語教育論などの科目を配置しています。また、外国語教育学新展開講義目も有用です。これからの英語教育を担っていく教員に必要な、高度な専門性を身につけることができるカリキュラムになっています。



英語学関連科目

英語の音声学・音韻論、文法論などの科目を配置しています。英語学に関しては言語学・コミュニケーション表現学コースで設定している内容も多く、意味論・語用論、形態論・統語論、英語語法文法研究、対照表現研究などが学べます。本研究科で学ぶことができる英語学の知識・分析方法は、英語教師にとって必須であるだけでなく、英語学分野の研究を深く続けたいと考える人にとっても重要な基礎となるものです。



実践・演習系科目

英語教育における実践力をつけるために、模擬授業や教材開発に関する科目、英語翻訳学演習、電子教材開発演習、英語教育インターンシップなどの科目を配置しています。また、海外の協定校で行うTESOLプログラムでは、TESOLの理論から実践までを5週間でカバーします。新しい統合型の英語技能学習指導は授業分析のための実践的科目であり、言語学・コミュニケーション表現学コースのコーパスによる言語分析演習も有用な科目です。



想定される進路

英語教育学コースでは、現代社会のニーズに応えられる先進的な英語教育学の理論と実践技術・教育力、英語教育に関する知見を身につけることができます。このような能力を活かして主に下記のような進路で活躍する人材を輩出しています。

- ・英語教員(小学校・中学校・高校・大学の英語教員)
- ・博士課程進学(英語教育に関する分野)
- ・教育・出版事業(企画/編集/開発分野、学習塾など)

日本語教育学 コース

Japanese Language Education Course



日本語教師、日本語教育の専門家に必要な、言語学習のプロセス、言語教育、言語、言語と文化/社会の関係などの高度な専門知識と研究方法を学び、国内外の日本語教育機関における教育実習で実践力を身につけることができる体系的なカリキュラムを設定しています。所定の条件を満たすと日本語教員養成課程の修了証を取得できます。学部で日本語教育や日本語学を専攻した人、現職の日本語教師の方や日本語や日本文化を専門として学んだ留学生など、多様なバックグラウンドを持った院生がお互いに刺激し合い、切磋琢磨できる環境・内容を提供しています。



■ 日本語教育関連科目 (講義系)

日本語教育の基礎から応用までの主たる内容として、日本語を対象とした第二言語習得論、日本語教育総論、教授法・教材論、そして言語教育における文化教育論、年少者日本語教育論などの科目を配置しています。日本語教育の知識・実践方法を学ぶというだけでなく、多様な学習者や教育環境に合わせて最適解を自分で考えることができるように、各自の応用力をつけることを目指す内容です。

■ 日本語学関連科目

日本語の音声・音韻、語彙と意味、文法、語用論、談話分析などの科目を、言語学的な視点と応用言語学的な視点で学べるように配置しています。ここで学ぶ日本語学の知識・分析方法は、日本語を外国語として教えるためにも、また、日本語を言語学的に研究するためにも重要な基礎となるものです。

■ 実践・演習系科目

日本語教育における実践力をつけるために、教材開発演習、電子教材開発演習、多文化共生実践演習、日本語教育実践演習(模擬授業含む)、日本語教育学演習(協定校での実習)などの科目を配置しています。特に協定校での実習は、国内の日本語教育機関だけでなく、英語圏、中国語圏、韓国、ベトナムでの実習機会も提供しており、国内外で活躍できる日本語教師の育成を目指したものです。また、正課外の活動として、府立高校での日本語教育ボランティアなどの活動も行っています

想定される進路

日本語教育学コースでは、多様な日本語教育の現場で主体的に日本語教育を展開することができる高度な専門的知識と実践力を身につけます。それを活かして、以下のような進路で活躍できる人材を輩出しています。

- ・日本語教師、日本語教育の専門家
国内外の大学、専門学校、日本語学校などの日本語教員、国際交流基金や国際協力機構(JICA)の日本語専門家、地域日本語教室の日本語教育コーディネーター/日本語教師、小・中・高等学校の外国ルーツの児童生徒を対象とした日本語指導員など
- ・本学文学研究科や他大学の博士後期課程への進学
(日本語教育学、日本語学などを専門とする研究者)
- ・教育/出版関係など、日本語教育や言語に関する知見とスキルを活かせる業界

在学生 の声



ZHI Liansi さん
日本語教育学プログラム
2022年4月入学

大学卒業後は中国で日本語教師として年少者に日本語を教えています。教壇に立ち、難題にぶつかっても、相談できる人、意見を交わす場が少なく、このままでは成長し続けることが難しいと感じていました。そのため、教師の持続的な成長に関する研究をしたいと決意し、言語教育情報研究科に入学しました。研究科では先生から「大学院での学び・研究は、これ以上やらないという境界はない」と激励されて、自分がずっと興味を持っている日本語教育総論、年少

者日本語教育論、言語文化教育論といった授業だけでなく、教材開発、談話分析、言語調査法演習などを受講しました。豊富な授業を通じて、先生方、研究科の友人たちと自由楽しく交流でき、視野が広がりました。2回生時には日本語教育実習の機会があり、基礎的理論の理解を深めながら、より実践と密着した研究を進めることができます。修了後は博士課程に進み、さらに研究を深めたい、研究や経験を活かして、日本語教育に携わり続けたいと考えています。

修了生 の声



大越 竣矢 さん
日本語教育学プログラム
2019年度修了
学校法人エール学園

修了後、留学生のための専門学校で職員として働いています。担任制なのでその業務と、進路指導や事務処理などもありますが、日本語科目も週に2日担当しています。言語教育情報研究科で学んだ日本語教育学や教授法の知識、教育実習などを通して得たスキルを発揮できています。もちろん今でも試行錯誤しながら授業をしていますが、学生の反応を

見て自分の授業を反省し、どうすれば学生の理解度が上がるかを考えていると、自分でも成長できていると感じられる有意義な日々を過ごしています。私の修士論文のテーマは言語学なので、その専門知識を今の授業に直接活かすことはできませんが、論文執筆を通して身に着けた、物事を多角的に見る姿勢は仕事に活かされています。

修士論文の例

- 【言語学・コミュニケーション表現学コース(言語情報コミュニケーションコース)】
 - ・アムドチベット語方言の現状調査:中国四川省アバチベット族チベット族自治州九寨溝県を中心に
 - ・動詞「あたる」の多義構造
 - ・非意図的な出来事を表す他動詞表現と責任意識:日本語と中国語との対照研究

- 【英語教育学コース(英語教育学プログラム)】
 - ・Incidental Learning of Single Words and Formulaic Sequences from Audiovisual Input
 - ・The Influence of the Situational Setting in the Main Task Stage on Japanese Junior High School English Learners' Anxiety, Motivation, and Speaking Task Performances
 - ・Reading Working Memory and Interpreting Performance in Professional Interpreters and Trilingual Students: An Eye Movement and Brain Activation Study

- 【日本語教育学コース(日本語教育学プログラム)】
 - ・日本語教師の協働学習における意思決定及び行動決定プロセス—国内日本語学校に勤務する教師に焦点を当てて—
 - ・日本語日常会話における助数詞「くつ」「こ」の特徴に関する考察
 - ・留学生にとっての「キャリア観」とは何か—元留学生の「語り」から捉えるキャリア観形成プロセス—

進路

教職

- 【公立学校教諭】
 - 京都府 京都市 亀岡市 大阪府 大阪市 兵庫県 西宮市 愛媛県 岐阜県 福井県 愛知県 神奈川県 東京都 京都教育大学付属桃山中学校 東京大学附属中等教育学校

- 【私立学校教諭】
 - 立命館大学系列中学・高等学校 同志社大学系列中学・高等学校 西大和学園中学校・高等学校 京都女子高等学校・京都女子中学校 京都光華中学校高等学校

- 【日本語教師】
 - 京都日本語学校 京都文化日本語学校 ECC国際外語専門学校 エール学園 メリック外語学院 関西外語専門学校大阪YWCA 立命館大学 立命館アジア太平洋大学 滋賀大学 九州大学 山東交通学院(中国) 建陽大学(韓国) タマサート大学(タイ) 青年海外協力隊

企業

- JTB NEC NTTドコモ P&Gジャパン アクセンチュア アップルコンピューター・シンガポール法人 かんぽ生命 京セラ サッポロビール サントリー ソニー ニチコン ニトリ 日本航空 日本生命 日本通運 日本特殊陶業 バンダイ 富士ソフト 富士通 三菱自動車 ユーシン精機 ヨドバシカメラ 国立大学法人職員 私立大学職員 国際協力機構(JICA) 国際交流基金

進学

- 立命館大学文学研究科 立命館大学政策科学研究科 立命館大学先端総合学術研究科 京都大学文学研究科 京都大学人間・環境学研究科 大阪大学言語文化研究科 名古屋大学国際開発研究科 筑波大学人文社会科学研究科 京都外国語大学外国語学研究科 関西大学外国語教育学研究科 関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科・文学研究科 総合研究大学院大学日本語言語学コース 広島大学人間社会科学研究科

資格・免許

教育職員免許状

言語教育情報研究科では、高等学校専修免許状(英語)と中学校専修免許状(英語)の取得が可能です。1種免許状を既に有している場合は、指定された科目のうちから24単位以上単位取得し、修士学位を取得することによって専修免許状を取得できます。

TESOL

TESOL(Teaching English to Speakers of Other Languages)は英語非母語話者への英語教授を表す用語です。本研究科では、海外大学において夏期にプログラムを開講しており、修了者にはCertificateが授与されます。この資格は日本で英語教員になるために必要ではありませんが、英語教育の専門資格として国際的に評価されるものです。

日本語教員養成課程

言語教育情報研究科では、法務省出入国在留管理庁が定めた「日本語教育機関の告示基準」及び「日本語教育機関の告示基準解釈指針」を満たした日本語教員養成課程を設置しています。日本語教育学プログラム所属院生が所定の要件を充足し研究科を修了した場合、「日本語教員養成課程修了証」を授与します。

究論館

(大学院生用研究施設)

2015年4月に開設された大学院生のための研究施設です。院生が個人で利用できる机(キャレル)や、研究科や専門を超えて、グループでのディスカッション、共同研究、研究成果の発信・共有などができる院生のためのスペースとしてリサーチcommonsを設置しています。



多文化共生をめざした日本語教育プロジェクト

「多文化共生をめざした日本語教育プロジェクト」は、衣笠キャンパス近隣地域の住民や立命館大学の留学生などを対象に、院生が日本語のサポートをするプロジェクトです。プロジェクトは、基本的に院生によって主体的に運営され、学生募集、担当者や教室スケジュールの決定、対象者のニーズに応じた日本語のサポート、多文化交流会等の活動を協働的に行っています。教える・教えられるという関係を越えて、院生同士で工夫し合い、一人一人の学習者に向き合いながらプロジェクトを進めています。また、言語教育情報研究科では、本プロジェクトを多様な面から理論的にも考えていく機会とするため、学習会やワークショップを開催しています。

言語脳科学研究

言語教育情報研究科では、2010年度以降研究科プロジェクトとして脳科学による言語処理メカニズム解明研究を、教員と院生が共同研究者となり取り組んでいます。科研費等学内外の研究費を獲得して、人文系研究科としては極めて珍しい大型機器(島津製作所 OMM-3000)を所有した特色ある研究を進めています。英語学習者・バイリンガル帰国生・中国人プロ中日英通訳者・国際結婚家庭児等を対象として言語習得・喪失現象を言語面に加えて脳賦活様態を多面的に探る研究を進めてきました。最近、これに加えて脳波や眼球運動データも同時収集して、基礎研究からワーキングメモリモデルを基盤とする仮説検証型研究へと徐々に移行しています。将来的に効果的な外国学習法や喪失しないための方略に繋がる研究を進める為です。

コーパス

コーパスとは、コンピュータで処理できる大量の言語資料を指します。人間であれば100年かかる作業がコンピュータだとほんの数秒でできます。コンピュータがもつこの桁違いの情報処理能力を駆使して、これまでの言語研究では見逃されてきた構文や、語と語の慣習的な結び付きであるコロケーションなどを詳細に記述することが可能になりました。コーパスから適切に情報を抽出するためには言語学的な分析力と機械についてのある程度の知識が不可欠ですが、これらの知識を駆使し、本研究科が保有する高性能のコーパス用サーバーと膨大な量のコーパスを活用することで、英語・日本語の諸特徴を探っていきます。現在はコーパスを処理するための便利なソフトがありますが、可能な限りそれらには依拠せず、処理過程を透明にし、コーパスをブラックボックスにしない方法を考えます。

訪問を歓迎します

言語教育情報研究科への進学を考えている方、実際にキャンパスへ来てみませんか？
 本学では春と秋に大学院進学説明会を開催していますので、気軽に参加してください。
 詳細は言語教育情報研究科のHP<<https://www.ritsumei.ac.jp/gsleis/>>をご覧ください。
 言語教育情報研究科の教員と連絡をとりたい場合は、氏名、連絡先、研究テーマを明記し、
 衣笠独立研究科事務室まで電子メールで連絡してください。
 尚、受験を予定している入学試験の出願開始日2週間前から入学試験当日までの間は教員と
 連絡をとることはできません。

衣笠キャンパス 交通アクセスマップ



キャンパスマップ



2023年度実施入試日程

選考方法、出願資格などの詳細は入学試験要項をご確認ください

	出願期間	試験日	合格発表日	実施する入試方式
2023年 9月入学	2023年5月25日(木)～2023年6月8日(木)	2023年7月2日(日) ※海外在住者は別途連絡します。	2023年7月20日(木)	一般・外国人留学生・APU特別受入
2024年 4月入学	2023年5月25日(木)～2023年6月8日(木)	2023年7月2日(日)	2023年7月20日(木)	学内進学
	2023年7月6日(木)～2023年7月20日(木)	2023年9月9日(土)	2023年9月28日(木)	一般・社会人(一般)・社会人(自己推薦)・社会人(協定)・ 外国人留学生・学内進学・APU特別受入
	2023年12月7日(木)～2023年12月21日(木)	2024年2月10日(土)	2024年2月22日(木)	一般・社会人(一般)・社会人(自己推薦)・社会人(協定)・ 外国人留学生・学内進学・APU特別受入・飛び級

※9月入学の一般・外国人留学生入試では日本語教育学プログラムは募集しません。



立命館大学衣笠独立研究科事務室

TEL: 075-465-8363 FAX: 075-465-8364

E-Mail: doku-ken@st.ritsumei.ac.jp

立命館 言語教育情報 検索



研究科HP